

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほしのごジュニア		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数) 18人
○従業者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラム(療育内容)が固定化されないよう工夫していること。	基本的な一日の流れはありますが、その日に利用することもの能力や課題を踏まえさまざまな活動を提供しています。例えば「数字・数唱」を学ぶために机上での学習だけでなく制作や運動療育にも取り入れながら、子どもが前向きに楽しく学べるよう工夫しています。	ここ数年は感染症対策として戸外活動や姉妹教室との交流を控える傾向がありました。今年度は少しずつ外部との交流の機会を増やしていますが、よりさまざまな場所、さまざまな人との交流の機会を増やし活動の幅を広げていきたいと考えています。
2	就園・就学を見据えて集団での活動を主としながらも、一人ひとりの課題に応じて小集団や個別活動も適宜組み合わせながら支援を行っていること。	就園後・就学後も子どもが集団で過ごすことを想定し、集団での活動を多く取り入れながら、集団生活に適応していくために必要な支援を行っています。また、異年齢で過ごしているため子どもの発達段階や課題に応じて小集団での活動も取り入れるようにしています。	発達段階や課題に応じてグループ分けをすることにより、一緒に活動するメンバーが固定化しがちです。現在も異年齢で学び合う機会は設けていますが、より多様な組み合わせでの活動を検討していきます。
3	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況などについて共通理解を図っていること。	療育後は一日の様子を保護者にフィードバックする時間を設けています。ご家庭や保育所での様子を共有していただくことでその後の支援に活かしています。また、ご家庭での関わり方などのアドバイスもさせていただき、保護者と事業所が同じ方針で子どもの支援を行えるようにしています。	職員も保護者もフィードバックの時間の大切に行っているからこそ、多少の待ち時間が発生することで相談しづらいといった意見がありました。丁寧かつ迅速に対応していくため話の内容や時間によっては相談支援も促しながら対応してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族等も参加できる研修会や情報提供の機会を計画的に設けること。	情報提供についてはフィードバック時やHUGにて時期に応じたお知らせを出しています。一方、今年度も保護者会は実施しておりますが、グループ相談支援やペアレント・トレーニングの実施は行えていない現状です。	就学に向けた相談は毎年話題に上がることから、保護者のニーズを把握し、時期を見ながら研修会などを計画的に実施していけるよう体制を整えていきたいと考えています。
2	医療機関や教育機関などと連携し、子どもの特性に応じたより専門的な支援を行っていくこと。	今年度も福祉・教育機関との連携は行っていますが、医療機関との連携については保護者からの情報共有に留まっているのが現状です。	専門職(言語聴覚士、理学療法士、保育士等)が事業所グループ内に常動している強みを活かし、これまで以上に連携をしながら子どもの特性に応じた専門的な支援を提供できるようにしたいと考えています。また、保護者や子どものニーズに応じて通院されている医療機関との連携も検討していきます。
3	非常災害時等の対応を保護者に周知すること。	避難訓練の実施については説明をしており、実施した際は保護者に周知していますが、非常災害時のマニュアルを策定し取り組んでいることについての周知が不十分であったため「わからない」といった意見がありました。	新規契約などの機会に非常災害時の対応についてマニュアルを策定しており職員研修や訓練も行い備えていることを周知していきたいと思っています。